

# 雨ニモマケズ

あめ

雨にも負けず

かせ

風にも負けず

ゆき

雪にも夏の暑さにも負けぬ

じょうぶ

丈夫な体を持ち

よく

欲はなく

けつ

決していからず

い

いつも静かに笑っている

いちにち

一日に玄米四合と

いちにち

味噌と少しの野菜を食べ

みそ

あらゆることを

じぶん

自分を勘定に入れずに

み

よく見聞きしわかり

みき

そして忘れず

わす

野原の松の林の陰の

のはら

小さなかやぶきの小屋にいて

ひがし

東に病気の子供あれば

ひがし

行つて看病してやり

にし

西に疲れた母あれば

つか

行つてその稻の束を負い

みなみ

南に死にそうな人あれば

こわ

行つて怖がらなくてもいいと言ひ

きた

北に喧嘩や訴訟があれば

けんか

宮沢

みやざわ  
けんじ

※

「稻の束を负う」

のうさぎょう  
てつた

農作業を手伝う

つまらないからやめろと言  
い

ひで  
日照りのときは涙を流し

さむ  
寒さの夏はオロオロ歩き

なみた  
みんなでくのぼうと呼ばれ

ほ  
褒められもせず

く  
苦にもされず

もの  
そういう者に

わたし  
私はなりたい